

あいづまちなかアートプロジェクト 2017

第5回開催記念講演会

石川県輪島漆芸美術館の四柳嘉章館長をお迎えし、第5回開催記念講演会を開催いたします。

日本人の食生活に寄り添ってきた漆碗とは何か。漆研究の最新の科学的成果をふまえながら、漆工史・社会文化史・考古学的視点から、器に秘められた奥深い歴史や文化、製作技法・意匠などをご紹介します。

皆様、ぜひご参加ください。

日時:平成29年10月14日(土)

午後3時から午後4時30分まで

場所:福島県立博物館講堂(城東町1-25)

演題:「漆碗の歴史と文化～たかが漆碗、されど漆碗」

講師:四柳嘉章氏(石川県輪島漆芸美術館館長)

定員:150名 ※手話通訳あり

参加費:入場無料(申込不要)

主催:あいづまちなかアートプロジェクト実行委員会

共催:会津若松市、会津若松市教育委員会

後援:福島県、福島民報社、福島民友新聞社、

NHK福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、

福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしまFM、エフエム会津

問合せ先:会津若松市教育委員会文化課 (Tel0242-39-1305)



四柳 嘉章(よつやなぎ かしょう)プロフィール

1946年石川県生まれ。1969年國學院大学史学科卒業。同年石川県最初の文化財担当主事として、県教育委員会に奉職。その後、高校や大学等の教壇に立ち、1992年日本最初の漆器文化財科学研究所を設立。漆器研究に考古学と顕微鏡分析、赤外分光分析、蛍光X線分析などの自然科学的研究方法を取り入れた「漆器考古学」を提唱。その学際的な研究により歴史学博士。石川県輪島漆芸美術館館長、漆器文化財科学研究所所長、国立歴史民俗博物館共同研究員、沖縄県立芸術大学講師、美麻奈比古(ミマナヒコ)神社宮司。

《 主な著書 》

『漆Ⅰ』『漆Ⅱ』(ものと人間の文化史シリーズ131-I・II)法政大学出版社、2006年

『漆の文化史』岩波新書、2009年